

1. 評価報告概要表

作成日 2007年9月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1072000381
法人名	有限会社 粕川カトレアホーム
事業所名	痴呆対応型グループホーム 粕川カトレアホーム
所在地	群馬県前橋市粕川町深津1144-2 (電 話) 027-230-6565

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年9月27日

【情報提供票より】(19 年 8月 25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 13年 1月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7人, 非常勤 1人, 常勤換算	7.4人

(2)建物概要

建物構造	木造造り		
	1 階建て	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1200 円		

(4)利用者の概要(8月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 77 歳	最高 91 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	城南病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

静かな農村地帯に立地している。利用者は、野菜や栗の实の収穫をしたり、草花の手入れや観賞などを楽しみとしている。ホーム内は、広く掃除が行き届いており清潔感がある。職員と一緒に食事の時間は、旬の食材の話などの会話を楽しみ明るい雰囲気である。経験豊富な看護師2名が常勤しており、特に医療面は家族からも評価を得ている。嘱託医との連携も密に「その人」の最期を大切にしたい、あたたかい・やさしい介護が実践されている。終末期の利用者を受け入れ、家族の希望で2名の利用者を看取った経験もある。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善項目に対して管理者と全職員は理解しており、前向きに検討し改善に取り組んでいる。苦情相談窓口に対しては、利用者にわかるように表示することに努め、食事を楽しむ取り組みとして職員と一緒に食事をとることに努めている。今後は、引き続き市町村との関わりや入浴の機会について検討していくことを望みたい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、全職員で取り組み実施する意義を理解している。評価の結果については、全員で共有し改善に取り組むサービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。討議内容は、自己評価・外部評価結果・事業所の報告・事案等を行っている。互いに積極的に意見を出し合い、検討を重ねることで地域からの協力や支援体制が生まれ、利用者の生活の質の改善に反映されている。また、ホームでは会議は地域へ役割をアピールできる良い機会でもあると考え、協力して何ができるか、行えることは何かを模索している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	意見箱を設置したり、第三者機関の窓口について表示をしている。家族の面会時には、会話の中から意見や要望が引き出せるように努めている。面会時だけでなく、日々の利用者の様子などを、家族等に伝達する方法の工夫があれば家族の安心にもつながるものと考え、より良いと思われる。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会会員として地域の集まりや会議等にも積極的に参加している。また地域の諸行事には利用者が参加している。日頃から近隣の人達が季節の花や野菜を届けてくれたり、ホームの花壇を手入れをしてくれるなど、地域との交流が行われている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「愛する介護」「誠実な介護」を掲げ、最期まで日々の暮らしがその人らしく生きられるよう取り組んでいる。	○	地域密着型サービスの理念として、地域との関係性をふくめた内容の検討を望みたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、玄関に掲げられ職員に周知されている。管理者や職員は、日常の中で行われているケアが理念にそっているかを、申し送りや会議等を活用して話し合いや指導を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは自治会へ加入し、地域の祭りや行事に利用者と共に参加している。保育園児の来所や、地元の人達が花壇の草むしりをしてくれたり、花や野菜を届けてくれるなど、日頃から交流が行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果と自己評価を対比し、全職員で内容の検討の話し合いを重ね工夫や改善を試みている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回 家族・自治会長・近隣者・市町村職員・学識経験者・ホームの職員で開催されている。会議では、利用者への介護の状況や家族との関わり、外部評価の結果や取り組みなどホームの現状やあらゆる事案について話し合われて対策を検討している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議では、事案に対して助言を頂いたり相談をしている。しかし、日頃は電話でのホームの空き状況の報告や市からの新しい情報のやりとりにとどまっている。	○	日頃から現場の状況や考えなどを伝え、日頃の実態を市町村担当者にも共有してもらえるような関係を築いていけることを望みたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には、毎月の支払いには来所するようにお願いしており、その際に利用者の日常の様子等を報告している。必要な時には、電話にて報告や相談をしている。しかし、すべての家族等に利用者の情報が届いているとはいえない。	○	面会時の報告はこのまま継続し、家族等の安心や満足度を考慮して、日々の生活の様子がわかるように報告の方法の検討を望みたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関わきに「意見箱」を設置して、苦情等申立先を表示している。入居の際には、苦情に関する相談の説明をし、苦情申立先を記載した重要事項説明書を渡している。また面会時やケアプラン作成時に積極的に言葉かけを行い、家族が普段から意見を言いやすいように努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、職員の定着は良く利用者の安定につながっている。新しい職員が入った場合には、慣れるようにふれあいの時間を持つ努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は、職員から希望をとって認知症研修や技術研修、グループホームの交換研修などに積極的に参加をしている。採用時は、年2回は外部研修に参加する体制になっている。受講後は書面で報告し、さらに伝達講習会を行っている。ホーム内においては、緊急時対応や体位交換、移動などの勉強会が随時に行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム相互の交換研修に参加し、また他のホームに行ったり受け入れるなどの交流をはかっている。その中で情報交換や具体的な工夫の仕方を学び、自分のホームに取り入れるなど質の向上につなげている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望時は、本人や家族に来所していただき、事業の目的と運営方針やサービスについて十分説明するようにしているが、実際には家庭や家族の都合により本人が納得しないまま入所になるケースも多い。事前に訪問し、本人の状態や生活を確認し、生活環境作りや職員との関係作りに役立てている。入居後は、家族の面会を多く持ち出来るだけ安心して過ごせるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	趣味やこれまでの職業として得意なことや生活の知恵を、利用者から教えていただける場面を大切にしている。切り絵や野菜の作り方、花の手入れ、栗のむき方などを教えていただいたりしている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や様子、生活歴から新生活見直しシートを活用し、利用者の思いや暮らしの意向の把握に努めている。その人のペースで、食後横になったり、ジグソーパズルをしたり、テレビを見たり、思い思いに過ごしている。歌や踊りの好きな利用者は、職員も一緒に手拍子を取り踊ったり、楽しく過ごしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、日々の利用者の様子や家族の意見、医師からの情報をもとに、スタッフで話し合い検討している。その内容をふまえ、利用者の担当の職員が中心に介護計画を作成し、ケアマネージャーが確認及び修正をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、2ヶ月毎に見直しを行っている。見直しまでには、月2回のカンファレンスをして情報交換を行っている。急変時は、そのつどカンファレンスや申し送り時などで検討し変更している。検討された内容や作成された計画は、職員会議や申し送りなどで全員が共有出来るようにしている。介護計画書は家族にも渡し、確認を取っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	終末期など利用者家族が宿泊を希望された場合は、宿泊できる部屋を確保している。また、2名の看護師が勤務しており、病院や医師との関係が築かれており、速やかな対応が出来るように支援している。また利用者が買い物に行きたいときは、一緒に出かけるなど支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望により、以前からのかかりつけ医に受診したり、ホームの嘱託医に受診したりしている。嘱託医の往診や緊急時には、近くの病院が受け入れてくれる支援体制が整っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の介護マニュアルが作成されている。家族や担当医師、職員で話し合いを繰り返し、医師と密に連絡をとりながら、介護方針の共有を図っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、人間性や誇りを傷つけないよう、言動に注意して接している。また、記録物などの個人情報、持ち出し禁止としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを把握し、利用者に合わせた対応を心がけている。体調やその日の状態により、部屋や食堂等それぞれの場所で過ごしている。食事を急がせることなく、それぞれのペースにあわせて介助している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は季節のものを取り入れ、施設長はじめ職員も同じテーブルを囲み、一緒に食べている。一緒に収穫した食材の栗拾いから皮むきの話など、会話を楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には週2回実施している。希望により、午前中や入浴日以外にも入ることがある。しかし、夜間に希望がある時は、職員が一人のため足浴や清拭で対応している。継続的に希望があれば、検討する方向である。	○	利用者の生活習慣や希望により、今後も入浴日を柔軟に変更する等の対応を引き続き望みたい。今後は、夜間の入浴を希望する場合にも、入浴ができるような工夫も望みたい。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴、趣味、得意なことやしたいことを把握してシートに記入しており、全職員が利用者の状況を共有している。貼り絵のカレンダー作り、手芸、歌やパズル、また生活のなかで食事の準備や片付けなど役割を担い楽しみとなるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	健康づくりもかねて散歩が日課となっており、天候の悪い時以外は近くの公園に行ったりして散歩に出ている。また一緒にスーパーやホームセンターに出かけたり、お花見や紅葉狩りなどにも出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の出入り口にセンサーは設置されているが、鍵は閉められることはない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回4月と10月に防災訓練を行っており、避難誘導等を実施している。また年2回消防署の点検が行われている。緊急時の連絡網も作成されており、また夜間時の災害発生に備え、近隣の人達の協力も運営推進会議で働きかけている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態により、水分量の調整や食事の形態をきざみ食や流動食に変えたり、栄養補助食品の活用も行っている。しかし、食事の栄養カロリーや栄養素的にどうかの把握されていない。	○	利用者の健康を維持するうえで、専門的立場の人に確認してもらうなど、食事のカロリーや栄養素を把握しておくことを望みたい。
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内には、季節の花や観葉植物が飾られている。大きな窓は見晴らしが良く、草花や栗の木なども見渡せ、季節の移り変わりが楽しめるようになっている。共有空間には、ソファや椅子、畳があり、利用者の好みでくつろげるようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、今まで使用していた座布団や仏壇などが希望どおりに持ち込まれている。ベットであったり、布団であったり、利用者の手作りの作品や家族の写真などが飾られていたり、その人らしい居室になっている。		